

アウトリーチとピアサポートを考える

～イギリス・アメリカの取り組みから学ぶ～



日時：2017年**12月23日**（土・祝）11:00～16:00

会場：埼玉会館 3F 3C 会議室

講師：佐々木理恵（リカバリーカレッジたちかわ）

相川章子（聖学院大学）

谷口研一郎（佐賀 ACTplus）

久永文恵（地域精神保健福祉機構）

司会：坂本明子（久留米大学）



<本日のスケジュール>

- 11:00-11:05 はじめのご挨拶
- 11:05-12:05 イギリス リカバリーカレッジについて：佐々木理恵さん
- 12:05-12:10 休憩または時間調整
- 12:10-13:10 アメリカ・フィラデルフィア：相川章子さん
- 13:10-14:10 お昼休憩
- 14:10-15:10 マディソンモデル：谷口研一郎さん・久永文恵さん
- 15:10-15:15 休憩または時間調整
- 15:15-15:55 全体シェア
- 15:55-16:00 おわりのご挨拶

☆休憩については、進行状況によって適宜調整いたします。

主催：



後援：

ACT 全国ネットワーク

協力：Cheers





~12/23(土) 埼玉会館

英国 リカバリーカレッジの紹介 & ピアワーカーについて

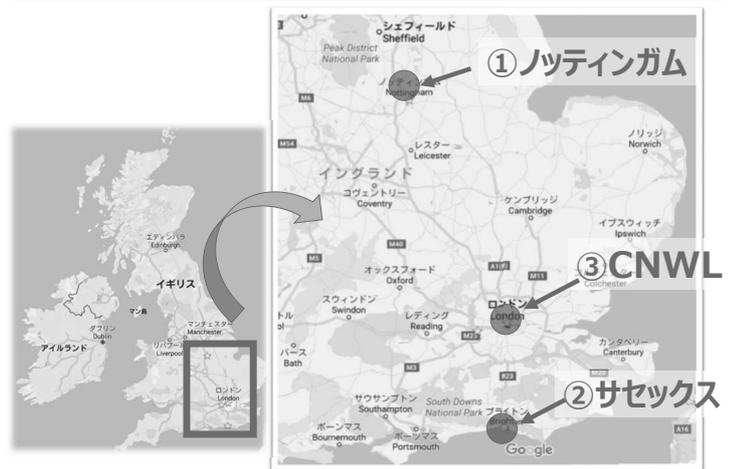
佐々木理恵 (リカバリーカレッジたちかわ)

本日お話しすること

- ①リカバリーカレッジについて & 視察報告
- ②リカバリーカレッジのピアワーカーについて
- ③ピアサポートワーカー実用化の為に 実践ガイドのご紹介
- ④立川でのリカバリーカレッジ実践について

②英国 リカバリーカレッジについて

昨年 訪問したRecovery College

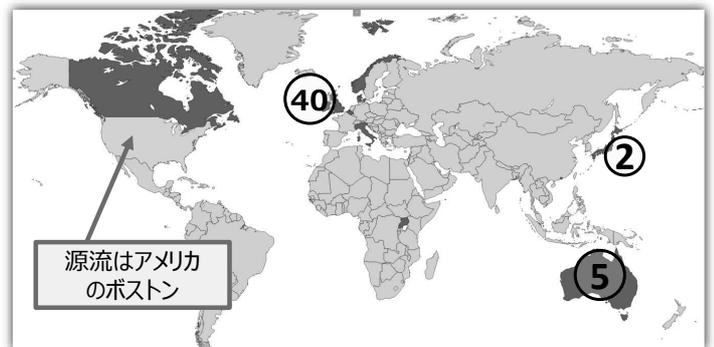


Recovery College とは・・・

- 源流はアメリカのボストン
- イギリスでは2009年から始まる取り組み
- 「全ての精神保健サービスはリカバリー志向になるべきだ」という方針へ → 国の取り組みとして広まる
- 現在世界で広がりをみせており、この取り組みは、国際的なムーブメントとなっている

Recovery College の広がり

イギリス	ベルギー	香港	アイルランド
オーストラリア	カナダ	デンマーク	日本
ノルウェー	ウガンダ	イタリア	・・・etc



英国におけるリカバリーカレッジの背景

- 1950年代～1995年 古い精神病院の閉鎖
- サッチャー政権80'Sの頃から国家財政↘
→ 福祉予算の削減
- 医療・福祉の国家予算を減らすための一環
- イギリスでは2009年から始まる取り組み
- 「全ての精神保健サービスはリカバリー志向になるべきだ」という方針へ
→ 国の取り組みとして広まる

リカバリーカレッジの原則

(Perkins, et al; 2012 より一部抜粋)

- **共同制作 (Co-production)**
- **主体的に学ぶ (Education model)**
 - 医療福祉ではい → **主体を尊重し、成長に焦点**
 - 教室や図書コーナーなど
 - ただし内容はリカバリーに関連する内容
- **誰でも参加してよい**
 - 精神保健サービスの利用者・患者
 - サービス提供者
 - 家族・友人、市民も



Central and North West London
Recovery & Wellbeing College
動画 <https://vimeo.com/125774990> →

リカバリーカレッジの特徴

- ①「治療」ではなく「学び」からリカバリーへ
- ②当事者と専門職が力を合わせて通学する

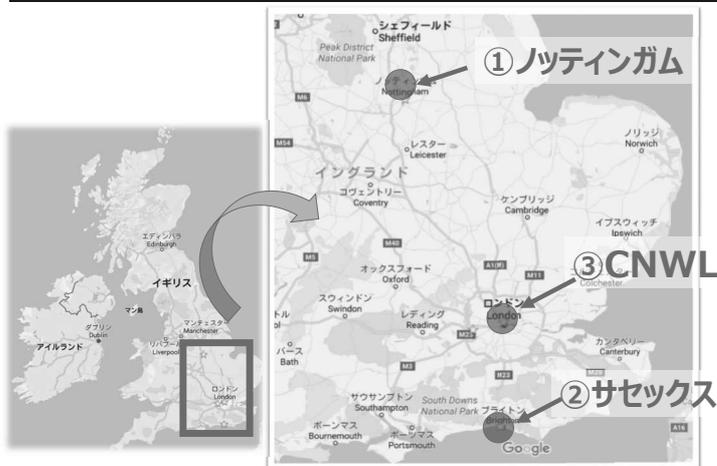
「患者・利用者」としてではなく
「学生」としてリカバリーについて学ぶ場
→ **Recovery College**

- ③地域コミュニティとのつながり
- ⑦誰でも歓迎 (インクルーシブ)

リカバリーカレッジが大事にしていること

- どの講座を受けるかは学生が自分で選ぶ
- スタッフから治療を勧められたりはしない
- **Co-production**は専門家に新たな視点をもたらす
- 教える (*teaching*)ではなく
一緒に学ぶ (learning)が重要
- 学生とスタッフは平等である

昨年 訪問したリカバリーカレッジ



ノッティンガム リカバリーカレッジ

- 2011年に開校
- イギリスで2番目にできたリカバリーカレッジ
- 出資はNHS (※**N**ational **H**ealth **S**ervice)



ノッティンガム リカバリーカレッジ



ノッティンガム リカバリーカレッジ



ノッティンガム リカバリーカレッジ

- 学生の対象：18歳以上（最高齢は85歳）
- 学生の数：350名程度/期
- 急性期や司法病棟にもキャンパスがある
- 講座のコマ数：50コース×6回＝300コマ程度/期
- 外部講師にも協力してもらって講座を実施
- 1年を限度に卒業となる

ピアと専門職が
一緒に講座運営

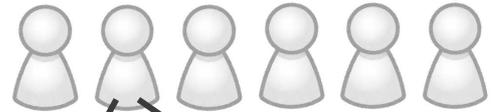


講座講師はどこからくるの？

※雇用元



National Health Service



○曜日は講師

いつもの職場

Recovery College

その他の機関
(医療・福祉)

サセックス リカバリーカレッジ (ブライトン校)

- 2014年に開校
- 第3セクターも出資をして運営
(※NPOや慈善団体など)
- キャンパスの数：7つ

2014年	2016年
8講座/期	30講座/期
学生 70名/期	学生 250～300名/期



サセックス リカバリーカレッジ (ブライトン校)

- 全英学生自治会連合会に加盟している
→学生証によって地域で様々な学割が使える
- ブライトン校だけでピアトレーナーが20名いる
- 卒業の目安：講座の60%に出席達成
- 卒業式には市長が出席
- 学生は何学期でも来ることができる※
- ただし申込みは2講座＋1ワークショップまで

サセックス リカバリーカレッジ (ブライトン校)

➤ 講座

- 水泳コース 即興演劇 音楽
- 絵はがき 鬱のコントロールについて
- 自尊心について 幸せの見つけかた
- 仕事と健康 …など30講座 (2016年12月現在)

■サセックス リカバリーカレッジ独自の取り組み
若い人向け (12~18歳以下と11歳以下) の
リカバリーカレッジ→**Discovery College**

CNWL リカバリーカレッジ

Central and North West London

- 2012年開校
- イギリスで3番目
- 会場は20か所
- 世界各国から年間70件ほどの視察がある



2012年	2016年
10講座/期	86講座/期
ピアサポートワーカー 1名	ピアサポートワーカー 30名

CNWL リカバリーカレッジ

- 基本的に費用は無料→NHSの利用者、その家族スタッフなど
- 講座：メンタルヘルス以外に身体健康の講座もある
・健康な心臓 ・糖尿病 …などなど
- 参加数 (2014-2015のレポートより)
開設以来 3094名が登録・合計9562名の出席
 - 15%が希望や自信 (self-belief) が上昇
 - 35%がストレス対処法を学んだ
 - 40%が、情報や知識、技術が向上したと
……回答

CNWL リカバリーカレッジ

- コースの受講について
- ✓ **他地域の人 (例えばSussexなど) は学費が発生する**
→LondonのRecovery Collegeのコースを受講すること自体は可能
- ✓ **時々とても遠方からロンドンのリカバリーカレッジに来る人がいる**
→そういう人は、ある特定のコースを受けることに対してとてもモチベーションが高い人である。

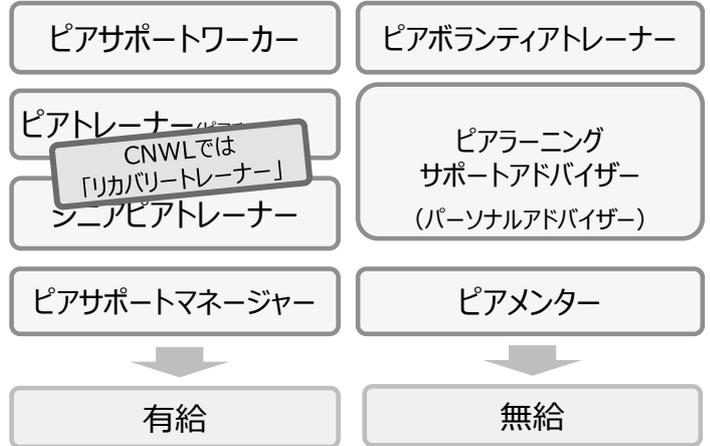
	ハッティンガム	サセックス	CNWL
開校時期	2010年	2014年	2012年
学生数	350/期	200~300/期	-----
講座数	50程度/期	30程度/期	90程度/期
受講の仕方	何コースでも受講可能	2コース+1ワークショップまで	3コースまで受講可能
卒業	1年を限度に卒業	期ごとに卒業式を実施	本人次第
独自の取り組み	プライマリーケア向けのカレッジを展開	若者向けのディスカバリーカレッジを展開	国際視察の受入れ多数

③英国・リカバリーカレッジのピアワーカーについて

今回 お会いしたピアワーカーの方々



今回 耳にしたピアの役割色々



ノッティンガム

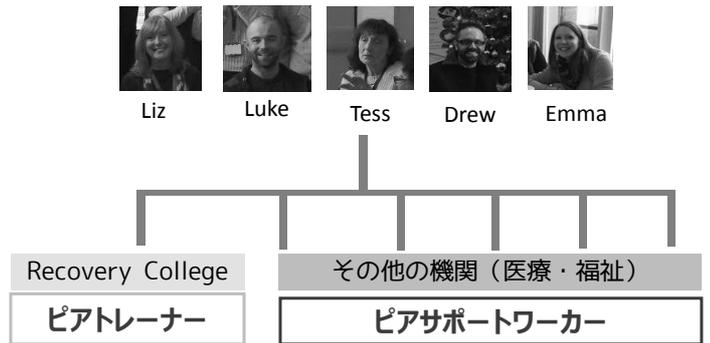


サセックス



役割が二つあるのは・・・？

※雇用元 **NHS** National Health Service



ノッティンガム リカバリーカレッジ



ノッティンガム ピアサポートワーカーについて

- ▶ ピアサポートワーカー・・・現在 英国では何千人
ノッティンガムだけで60名
- ▶ ピアサポートワーカーは急性期の病棟にもいる
- ▶ ピアサポートワーカーがすること
(例えば) ・何かの交渉を助けたり ・WRAP
・利用者さんと話す ・いわゆる助手業務も

→治療 (treatment) としてではなく
生きる技術 (life skill) に関わる支援

ノッティングム ピアサポートワーカーについて

➤ ピアサポートワーカーのトレーニングについて

- (通常) 日数……5日間
 規模……15人程度を対象
 トレーナー……ピアトレーナー2~3人
 専門職トレーナー1人
 内容……リカバリーカレッジの
 原則を伝える

※トレーニングの内容に関心のあるかたはImROCの資料をご覧ください

ノッティングム ピアサポートワーカーについて

➤ ピアサポートワーカーの雇用について

～雇用の仕方の経緯～

雇用人数	勤務時間	雇用期間
6人	6h/w	6ヶ月間
9人	6h/w	12ヶ月間
12人	6h/w	3年間

- 当初は人員配置に上乗せでピアを配置→嫌がられることはなかった
- 今は上乗せ × (人件費がないため) →誰か欠員が出たらそこにピアサポートワーカーを雇ってもらうという形で進めている
- ピアサポートワーカーは職員枠としては、看護補助者のような形

ノッティングム ピアサポートワーカーについて

➤ ピアサポートワーカーの雇用について大事なこと

- ✓ ピアサポートワーカーなら誰でも良いということではなく、適切な人をメンバーにする
- ✓ 職位の高い人達がピアが重要だと同意していること
- ✓ いつでもエビデンスを作り続けること
- ✓ (ピアは) 時には勇敢にならなければならない
→意見を言う時などに
- ✓ 一つの職場チームには二人のピアがいることがいい
- ✓ ピアグループスーパービジョン (毎月行っている)

ノッティングム リカバリーカレッジ



ノッティングム ピアサポートワーカーについて

ある看護師に

「実は、こんなの (ピアサポートワーカーが職場に入ること) くだらなくて、ばからしくて、危険なことだと思っていた。でもよい効果となっている、ということがわかった」



と言われたことがあって、認められたと思った。ピアサポートワーカーの人達は、本当にとっても一生懸命働いた。それがロールモデルとなり、ピアサポートワーカーの全ての会話が相互的で、ストレングスベースで、リカバリー志向のアプローチである。

ピアサポートワーカーに懐疑的な人に直接対決するのではなく、実際に違いを見てもらうのがいいと思っている。



ピアサポートワーカーは文化を変えることができる。

Tessさん

ノッティングム リカバリーカレッジ



ノッティンガム ピアトレーナーについて

➤ ピアトレーナーにはどうやってなるの？

- ✓ 病棟の壁などに募集が張り出され、それに応募する
- ✓ ノッティンガムリカバリーカレッジでは、教える技術などを学ぶ5日間のコースがある
→専門職もピアもそこで学んで、自信を持ってカレッジの講座で教育を提供できるようになってもらう



■ Mabzさんの場合 **ピアボランティアトレーナー**
以前はこの学生だった。卒業時にトラストのボランティアとして登録その後、カレッジのボランティアピアトレーナーとして応募の後採用

現在、カレッジでは、ボランティアの人が30名程度
ボランティアは、ピアトレーナーとなるためのトレーニングでもある
本当は給与を支払いたいけれど、無給である

ノッティンガム ピアトレーナーについて

➤ ピアトレーナーの給料

- ✓ NHSのサポートワーカーと同じ給料で、約20,000ポンド
- ✓ 給料体系でいうと、Band3

Band1	今はない
Band2	事務
Band3	OTやサポートワーカー
Band4	今はない
Band5	看護師
Band6	上級看護師
Band7	マネージャー

個人的には、資格を持った看護師に対する給料と同じ金額であるバンド4が望ましいと考えている

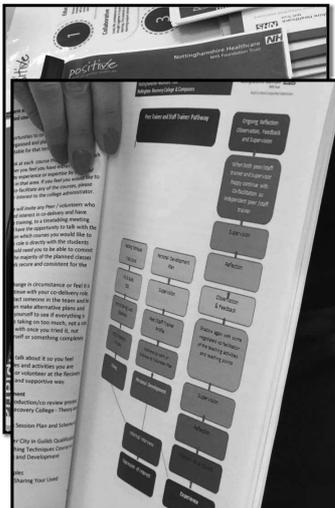
(スーパービジョン、インターナルトレーニングなど
すべてのお金はNHSから支払われている。)



Helenさん
Nottingham Recovery College Manager

～コンテンツ～

- ようこそ
- 私に何が出来る？
- 舞台裏でのサポートについて
- コ・プロダクションチームに関わる
- コ・レビューチームに関わる
- 個別プロジェクトに関わる
- 学習バディーに関わる
- ピア・トレーナー/ボランティア・ピアトレーナーに関わる
- ボランティア ピア・ラーニング・サポート・アドバイザーに関わる
- カレッジの背景情報



サセックス ピアについて

- 今、サセックスRCでは、バディーのトレーニングをしている。
→誰にでもバディが付くわけではない。
配慮の必要な人のみ。
- 今、Brighton & Hove校だけで、20人のpeer tutor (peer trainerと同じ) がいる。
- Peer mentors ピアメンター
ピアメンターというのがある。ピアtutorとも又違う。
誰でもなれる。学生をサポートする。Peer tutorsと同じようにトレーニングを受けるが、交通費は出ない。
- スーパービジョンは、シニアピアトレーナーとクリニシャンの二人から受ける (これもCo-production)

CNWL リカバリーカレッジ

- 2012年開校
- イギリスで3番目
- 会場は20か所



2012年	2016年
10講座	86講座
ピアサポート ワーカー 1名	ピアサポート ワーカー 30名

- 一年間で世界各国から
70 件ほどの視察がある

CNWL リカバリーカレッジ

※CNWでは
Peer trainerもPractitioner trainerも→Recovery Trainer



Theaさん

シニアリカバリートレーナー (プラクティショナルトレーナー)

Physical Health Lead (身体健康の責任者)
以前はピアサポートワーカー、ピアトレーナーだったが
今はpeerとしてではなく、専門職として働いている
学問的な専門は心理学



Wilさん

リカバリートレーナー (ピアトレーナー)

CNWLでは不定期に講座の仕事をしていて、その他にNHSではない別の組織 (Mind) で1回/月 ピアサポートワーカーとして働いており、病院に案内などを行っている。

CNWL リカバリーカレッジ

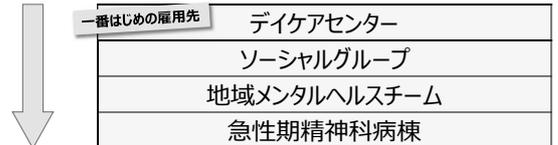
※CNWでは
Peer trainerもPractitioner trainerも→**Recovery Trainer**

- ✓ 毎日のクラスの中では、専門家トレーナー (Practitionertrainer) とピア・トレーナー(Peer trainer)とを、特に区別していない。皆平等なポジションであるからそうしたことを逐一示す必要はない
- ✓ しかし、NHSの組織内では、ピア・トレーナーか専門家トレーナーかどちらであるかを表記することがとても重要なことである
- ✓ なぜなら、ピアも専門家トレーナーと同じ地位で働けるということを示すモデルであるから

CNWL リカバリーカレッジ

- CNWLでのピアサポートワーカーの雇用拡大について
 - ✓ 5,6年前 1人のピアサポーターの雇用から始まる
 - ✓ 今は30名程度のピアサポーターがいる

ピアサポートワーカーの職場



ピアサポートワーカーは、サービス利用者にも、サービス内で働くスタッフにも影響を与える。というのは、ピアサポートワーカーは、自己管理 (self-management) をしている人達で、そのモデルがそこにいるということは、とてもパワフル。

CNWL リカバリーカレッジ

お給料、職務内容について

- ✓ NHS Trustには「ピアサポート・マネジャー」という役職がある
- ✓ 全てのピアサポートワーカーの雇用などを統括
- ✓ この人が、トラストのピア・サポーターをリクルートする

ピアサポートマネジャー

リクルート

ピアサポートワーカー

聞き取り

雇用しようとする職場

- 何が 필요한のか聞き取り
- 一緒にどんな人が必要か
(職務内容job description) を書く
- お給料と仕事の配分を決める

組織における既存の文化を変えていくためには、ピア・サポーターの仕事が他の仕事と同じだけ大切に同じ金額が払われているということを組織全体に知らせていくことがとても大切である。

CNWL リカバリーカレッジ

労働環境について

- ✓ ピア・トレーナーは自分の土台を支えることがとても大切
- ✓ 特に、バーンアウトを避けるためにスーパービジョンを受けることが大切

ピアトレーナーのトレーニングについて

- ✓ 10日間のトレーニングがある
→ロンドン大学 (London University) と一緒に作った
- ✓ 6~7年前の時点では、ノッティンガム方式でトレーニングを受けたけれど、TheaさんはLondon方式になった
- ✓ トレーニング中に課題が2つある

CNWL リカバリーカレッジ

ピアサポートワーカー自身の経験を語る時に大事なこと

- ✓ いつでもどこでも話せということではない
- ✓ 何を、いつ、どこで対象者に語るのか？
- ✓ 自分にその話をする準備ができていますか？
- ✓ 自分を保てないような話はしない

ピアサポートワーカーが自身の経験を語るのは、対象者に希望 (Hope) をもたらしたり、対象者が自分が特別なわけじゃないと思わせたり、ひとりぼっちじゃないと感じさせることができそうなとき。

CNWL リカバリーカレッジ

バウンダリーについて

- ✓ 精神保健の分野では、力の不均衡がずっと続いてきた。それらの不均衡を今なくそうとしているところ。
- ✓ 今、CNWLでは、スタッフ (ピア以外の専門職) にバウンダリーの境界をもっと広げてみるように言っている。これまでは、(専門職は) 人間的な面を見せず人間というよりはロボットのように接していた。
- ✓ でも、もっと希望のある言い方、相手を寂しい気持ちにさせない接し方、人間性を示すやり方で接することを推奨している。相手が孤独感を感じないように。

④英国・ピアサポートワーカー
 実用化の為の実践ガイド
 のご紹介



7. Peer Support Workers :
 a practical guide to implementation

ピアサポートワーカー：
 実用化の為の実践ガイド …のご紹介

Developing peer worker posts : four phases

ピアワーカー雇用の4つの段階

1. 準備

2. 募集

3. 雇用

4. 発展

Developing peer worker posts : four phases

ピアワーカー雇用の4つの段階

1. 準備

- 組織をどう作るか
- チームをどう作るか
- 役割を明確にする
- よくある誤解
- ピアワーカーを準備
 (トレーニングと職場配属の機会)
- 職務内容と求める人材

ここでいう準備とは
 「受け入れる側=組織」
 の準備のこと

Developing peer worker posts : four phases

ピアワーカー雇用の4つの段階

- 求人広告
- 手当(年金、生保など)に関するアドバイス
- 応募
- 面接
- 職場での健康
- 犯罪歴チェック
- 雇用に繋がらなかった人のサポート

2. 募集

採用に関すること

Developing peer worker posts : four phases

ピアワーカー雇用の4つの段階

雇い入れ後

- 職場の選択(見立て)
- 導入
 オリエンテーション
- スーパービジョンとサポート
- 健康を保つ

3. 雇用

Developing peer worker posts : four phases

ピアワーカー雇用の4つの段階

- キャリアパス
- トレーニングの機会
- 広い組織変革

ピアワーカーという
役割の発展に関すること

4 .

発展



PHASE1 : PREPARATION

Box3 :

Defining the roles of peer workers
mental health practitioners and support staff

役割の定義

ピアワーカー、専門職 & サポートスタッフ
…のご紹介

Box3 : Defining the roles of peer workers
mental health practitioners and support staff

Peer support workes	mental health practitioners	Non-Peer support staff
メンタルヘルスの生きた経験を活用する	学んだ専門知識のスキルと専門知識を活用する	人生経験、これまでに得てきた知識とスキルを活用する
「できるんだ！」というイメージを与えることで、他の人をインスパイアする	臨床的介入、治療およびサポートを提供する	精神保健以外の世界との接点を維持する
チーム内にリカバリーに焦点をあてることをもたらす	良いチームの関係性をつくる事	地域資源とコミュニティでの機会についての知識をもたらす



PHASE1 : PREPARATION

Box4 :

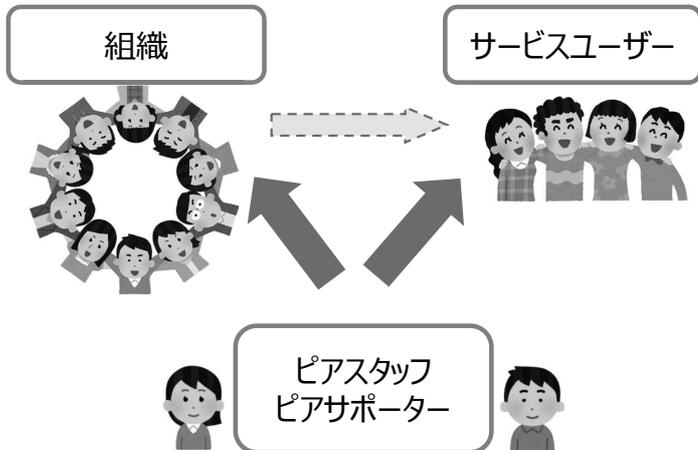
Common myths and misconceptions
about peer workers

ピアワーカーについてのよくある誤解
…のご紹介

- 誤解 1. ピアサポートとはただのお金を節約する為だけの方法である
- 誤解 2. ピアはとても脆いので仕事で「潰れてしまう」可能性が高い
- 誤解 3. ピアは当たり前である秘密保持の基準にのっとる事は期待できない
- 誤解 4. ピアサポートワーカーと精神的困難の経験を持つ他の（専門職）スタッフとの間にちがいはない
- 誤解 5. ピアサポートワーカーは「間違ったことを言うてしまう」とスタッフを心配させる

- 誤解 6. このご時世では「精神的困難を持っている」というと職を得られる
- 誤解 7. ピアは素敵な事を全てやります。患者さんと話したり、外出をしたり、一緒に家に帰ったり。ピアじゃない私たち（専門職）はつまらない投薬や食事の配膳、ベッドメイクなどをしなければならない
- 誤解 8. ピアは友達関係と仕事関係の違いをしらない
- 誤解 9. ピアは破壊的でアンチ精神医学とアンチ薬物療法である
- 誤解 10. ピアは時間がかかるので、伝統的な（従来の）職員の仕事をより困難にさせる

ピアスタッフが力を発揮できる場



東京・立川での リハビリカレッジ実践について

東京・立川での実践について



東京・立川での実践について



弊法人グループ 「parquet (パルケ) グループ」について

A map of Tokyo highlighting specific service areas. A callout box for '東京都 立川市' (Tokyo, Tachikawa City) lists: '地域活動支援センター (マーキー)', '就労移行支援 + 生活訓練 (こみつ)', '計画相談 (ほろりす)', and '生活訓練 (すべいろ)'. Another callout box for '東京都 日野市' (Tokyo, Hino City) lists: '放課後等デイサービス (WING)' and '株式会社Parquet (法人 総務など)'.

リハビリカレッジ実践への法人の想い

- ① 障害の有無に関係なく人と人が出会い
理解しあえる地域社会づくり
- ② 地域の選択肢をふやす
- ③ (メンタルヘルスに関する) 学びの機会の保障
- ④ 支援職が (過剰な) 役割から解放されること
対話などによる“水平な関係性”の構築



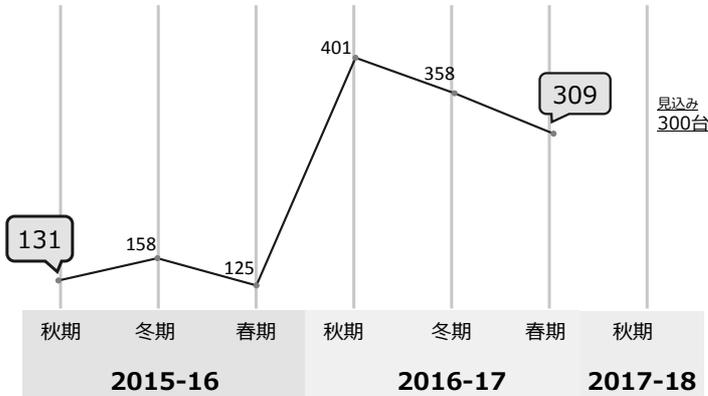
リハビリカレッジを行っている場所

障害福祉サービス事業所		法人独自事業	
内容	生活訓練 すべいろ	内容	リハビリカレッジ たちかわ
定員	20名	定員	講座毎に変動
時間	平日 10時～16時	時間	平日夜 & 土曜



東京・立川での実践について

延べ学生数



講座の様子 & ライブラリー



修了式の様子



運営方法について

運営体制	運営委員会方式
事務局	生活訓練すべいの職員が兼務

■ 運営委員の構成

- ・当事者
- ・PSW
- ・OT
- ・Ns
- ・CP
- ・Dr
- ・ピアスタッフ
- ・学生
- ・研究職…など



➡ 近隣の支援職・当事者などが有志で参加

■ 議題：講座内容、スケジュール、運営システムなど

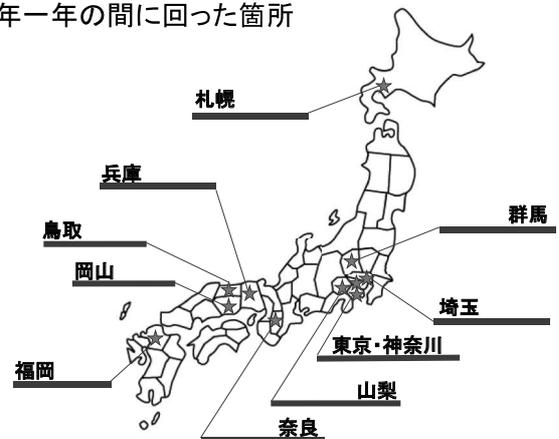
東京・立川での実践について

全ての過程で **“Co-production”**

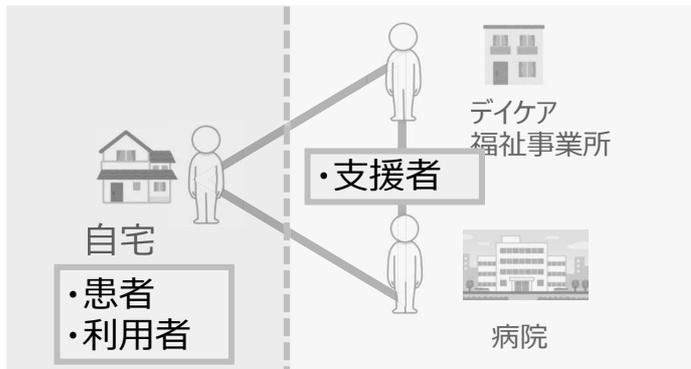


今後の日本における展開

今年一年の間に回った箇所



この取り組みを通して起きている事



- ・家ーデイケアー病院・・・の往復だけだった生活が・・・
- ・支援するーされる・・・の世界観の中での生活

この取り組みを通して起きている事

～人との出会い方や活動範囲の拡がりの変化～



リカバリーが促進される場づくり

これまでの〇〇するーされるの関係ではなく・・・

Recovery College



**立場や職種関係なく
自分の人生を生きてきた者同士**

- ✓ ひとりの人として出会うこと
- ✓ 共に学びあう場

→こんな場からリカバリーを目指していこう

立川での取り組み 詳細について

- Webサイトから
ご覧いただけます



- Facebookの
pageもあります



主催：コンボ 後援：ACT全国ネットワーク協力：Cheers
アウトリーチとピアサポートを考える

**アメリカ・フィラデルフィアの
ピアサポート活動報告**

2017.12.23 (土) 11:00~16:00
 会場：埼玉会館3C

相川 章子 聖学院大学人間福祉学部



内容

- 自己紹介
 - なぜ、ピアサポートに関心を持ったのか。なぜ、アメリカ行ったのか？
- アウトリーチとピアサポート活動の紹介
- ピアサポーターのサポートネットワーク
- コミュニティ・インクルージョンとピアサポート
- 私が経験したアメリカ
- アメリカのピアサポートを取り巻く背景とその経緯
- 日本のピアサポート活動



マシュー(Matthew Federici)の語り

- マシュー(Matthew Federici)：コーブランドセンター事務局長、国際ピアサポーター協会理事、ピアスペシャリスト
- マシューのリカバリーの歩みと、ピアサポートとコミュニティ・インクルージョン

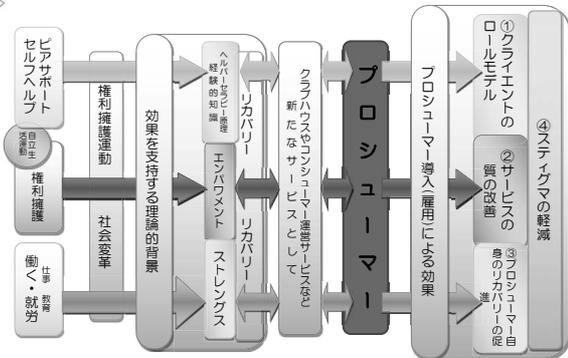
ピアサポートはすべての人の暮らしの中心概念に据えられるべきだろう



日本・アメリカの実際の例 ー可能性は無限大ー
ピア活動・ピアサポーター実践の実際例



CPS(プロシューマー)の理論的基盤の生成



アメリカの例：ピアサポーターの認定資格制度化
認定ピアスペシャリスト

- 自らの人生経験をいかして利用者のリカバリーに寄与するケアチームメンバーであり、**新たな職種**である。
- 2000年 ジョージア州で制度化
- メディケイド(米国の低所得者向けの保険) による償還対象サービスである
- 全米で約25,000人(実際には35,000程とも言われている)、41州メディケイド還付制度導入(2016年現在)
- ジョージア州ではすべての機関に必置化
- 広がりポイント：①プロシューマー導入による効果を支持する実践報告および理論的背景②メディケイド(米国の低所得者向けの保険)による払い戻しの対象サービスとして位置づけたこととジョージア州の成功



認定ピアスペシャリスト (Certified Peer Specialist : CPS) 制度化の背景 (ジョージア州)

- 1999年,全米調査によりジョージア州の精神保健がもっとも酷い状態にあることが判明→州の精神保健局でリカバリーとピアサポートに力を入れることとし,ゲイワードの精神保健加算のもとゲイワードの資金を獲得した.
- ジョージア州にはすでにコンシューマーによるロビー活動が発展しており, **コンシューマーネットワークも組織化** (GMHCN) されていた
- 制度化にあたってはコンシューマーネットワーク (**GMHCN**) と担当局で民間組織 (Appalachian Consulting Group) を設立
- 現在はすべての精神保健機関に少なくとも一人CPSを雇用することを義務付けている



ピアサポーターの実践 ~さまざまなプログラムで活躍~

◆さまざまなプログラム内容がある

- ❖ サポートグループ
- ❖ ケースマネージメント
- ❖ 就労支援
- ❖ 人権擁護
- ❖ アウトリーチ
- ❖ ホットライン(電話相談)
- ❖ ドロップイン
- ❖ 生活技術/日常活動
- ❖ クラブハウス 等

…すべてのサービス提供機関で活躍



移動式精神科リハビリテーションサービス Mobile Psychiatric Rehabilitation Services (MPRS)

- 7人チームのアウトリーチサービス
- ピアスペシャリストとの協働の実践
 - cf.ピアスペシャリスト半数以上のチーム
 - cf.チームスタッフ全員ピアスペシャリスト
 - cf.チームリーダーにピアスペシャリスト



移動式リハビリテーションサービス (MPRS) 実施基準：I 目的

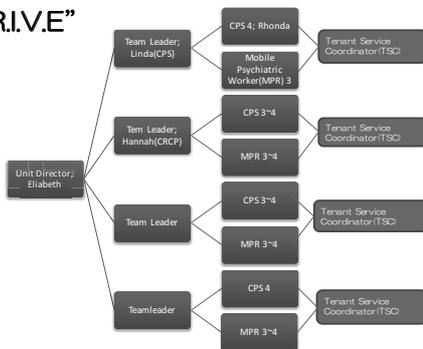
全米精神科リハビリテーション協会：USPRA: United States Psychiatric Rehabilitation Association

- 目的：スキルの獲得や活動を通してリカバリーをサポートし、個々が目指す人生の目標を達成し、彼らが選択する暮らしや働くこと、学ぶこと、社会的コミュニティ能力を確立していくことを描いたサービスである。
- ペンシルバニア州では、ペンシルバニア州法第52番5320章に精神科リハビリテーションサービス (PRS) 規定を公布しており、この規定はMPRSとして運営許可を取得するに必要とされる最低限の要件を設定している。これらはペンシルバニア州のすべての郡部に適用されている。



“Team A.R.R.I.V.E” チーム構成

- ❖ 1チーム7名、それぞれのチームにCPS 3~4名、MPRW 3~4名
- ❖ -CPS 14名、MPRW (Mobile Psycho Rehabilitation Worker) 14名 ほぼ全員フルタイム。
- ❖ 同じ責任と仕事を担っている。
- ❖ それぞれのチームに Tenant Service Coordinatorが一人ずつついている。彼らだけで担当するケースもある。



“Team A.R.R.I.V.E” 運営について

- 予算はCBH(フィラデルフィア市のCommunity Behavior Health)から \$22/45minutesの予算が出る。
- 30名のチームメンバー全員が集まるミーティングが月に1回。
- それぞれのチームの集まりが月に1回。-ミーティング以外でも必要な時は連絡を取る
- セルフケアが大切。バーンアウトしてしまう。



移動式精神科リハビリテーションサービス
“ピアネット (PeerNet)” CPSだけで構成されたチーム

- チームリーダーJulieさん以外は6名全員認定ピアスペシャリスト
- 職名は全員「リカバリーコーチ」
- 一人のリカバリーコーチが約12~15人の利用者を担当
- 支援するもの、されるものではなく、同じ経験がある「対等な関係性」を大切にしている。
- なので「支援 (support)」という言葉は使わず「参加 (participant)」という言葉を使うようにしている
- SVRのJulieさんと全員週1回個別SV実施
- スタッフミーティング月1回



移動式精神科リハビリテーションサービス
“ピアネット (PeerNet)” CPSだけで構成されたチーム

大切にしている理念

- 希望
- 自己決定
- 支援 (支え合い)
- 全体に焦点をあてる
- 文化的意識
- 個人的な責任
- エンパワメント
- ストレングスベースド
- 教育と学習



移動式リハビリテーションサービス (MPRS)
実施基準；II サービスの範囲

全米精神科リハビリテーション協会；USPRA: United States Psychiatric Rehabilitation Association

- 自発的で、地域を基盤とし、顔と顔の見える関係で行う
- 精神保健と二つ以上の課題を併せ持った個人に対して、彼ら自身の選択と、スキルの開発、適切な資源を利用する権利を得るための支援に焦点を当てる
- 個人は、自分自身の目的を達成するために、活動の管理と開発、計画の主導権を握らなければならない。
- サービス事業所は、サービス (事業所以外のサービスも含む) や、明確な目標、彼らの目標を達成するために必要な個別的な技能の開発への参加と、これらのスキルを要求した支援を獲得することの双方と協働することである。
- MPRSは様々な保証人プログラムの下にある住宅支援金を受けている個人にも届けられる。



移動式リハビリテーションサービス (MPRS)
実施基準；II サービスの範囲

全米精神科リハビリテーション協会；USPRA: United States Psychiatric Rehabilitation Association

- MPRSは、人中心で、直接的で、全体的で、協働的で、ストレングスベースドで文化的で、敏感で、トラウマインフォームド (トラウマを念頭に置いた)、エビデンスベースド (根拠に基づいた) である。
- MPRSの最も重要な目標は彼らの選択する地域の中で活用する技能を開発しようとする個人を支援することである。
- MPRSはフィラデルフィア地域の至る所で学んだ教訓をとり入れ、個人に可能なサービスを広げる。



移動式リハビリテーションサービス (MPRS)
実施基準；II サービスの範囲

全米精神科リハビリテーション協会；USPRA: United States Psychiatric Rehabilitation Association

- MPRSは、人中心で、直接的で、全体的で、協働的で、ストレングスベースドで文化的で、敏感で、トラウマインフォームド (トラウマを念頭に置いた)、エビデンスベースド (根拠に基づいた) である。
- MPRSの最も重要な目標は彼らの選択する地域の中で活用する技能を開発しようとする個人を支援することである。
- MPRSはフィラデルフィア地域の至る所で学んだ教訓をとり入れ、個人に可能なサービスを広げる。



移動式リハビリテーションサービス (MPRS)
実施基準；IV 組織の構造 (チーム構成)

全米精神科リハビリテーション協会；USPRA: United States Psychiatric Rehabilitation Association

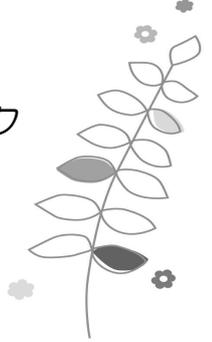
- **MPRS所長**はスーパーバイザースタッフであること。
- フルタイムと同等のスタッフ (FTE) 総数の25%は**MPRSスペシャリスト**の資格を満たしていなければならない。
- **MPRSスペシャリスト**の1人以上は；MPRS所長による委任されたMPRSスペシャリストスーパーバイザーの機能を果たし、2つのポジションのための承認された職務内容と一致した人であること。
- 要件を満たさなかった場合、チームは一人以上の**精神科リハビリテーションワーカー**または**精神科リハビリテーションアシスタント**、または**認定ピアスペシャリスト (CPS)**を雇用すること。[それぞれのポジションのためのMPRSスタッフ資格を参照]
- CPS資格プログラムとして、もしそのチームが一人以上のCPSを取り入れている場合、訓練されたCPSスーパーバイザーもまたMPRSチームのメンバーに一人はいなければならない。チームサービスの継続性のためには、CPSスーパーバイザーもまたMPRS証明があることが推奨されている。[MPRS資格と MPRS要件研修を参照]



MPRSの位置付け (Markの見解)



ピアサポーターのサポートネットワーク



ピアスペシャリスト専門職開発ネットワーク会議 (Peer Specialist Professional Development Network Meeting)



マシュー(Matthew Federici)のリカバリーストーリーから

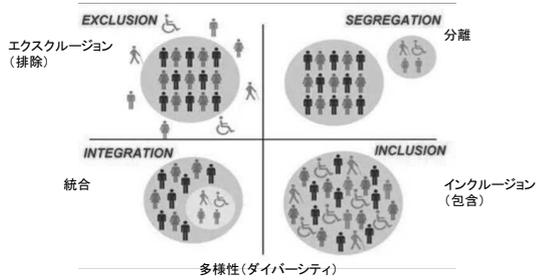
- マシュー(Matthew Federici): コープランドセンター事務局長、国際ピアサポーター協会理事、ピアスペシャリスト
- マシューのリカバリーの歩みと、ピアサポートとコミュニティ・インクルージョン

家族と友人のサポートがあって、学校とつながりを持ち続けることができた

このことが私のリカバリーにつながっている



エクスクルージョン (排除) からインクルージョン (包含)



コミュニティ・インクルージョンとは?

- Being 在る
- Removal Barrier 障壁を取り除く
- Opportunity 機会

- 地域の一員として地域の中に共にいる
- 地域の一員として地域市民と共に参加する



- Doing する
- Welcoming 歓迎する
- Outcome/Behavior 結果・行動



“ピア文化とコミュニティ・インクルージョン”という部署

- フィラデルフィア市精神保健・知的障害部戦略的計画とイノベーション課の中にあるユニット
- 精神障害や知的障害のみならず、移民者、LGBTなどダイバーシティの街ならではの様々なピア文化構築を促進・サポートする。
- ピアスペシャリストに関わるトレーニング、スーパービジョン、サポート体制などについても担当。



ユニット責任者ショーンさん(左)と同僚Mariaさん(Mariaさんの担当はDBH-HIDSの「精神保健応急処置」という各地で開催される啓発プログラム)



アメリカのピアサポートを取り巻く背景とその経緯

- ❖ 精神障害領域におけるリカバリーとピアサポートへの大きな変革のムーブメントについて概観

ピアサポートの展開とその経緯



リカバリー志向に向けたムーブメント



ジョン・バーセガル(英国首相の孫)による個人的な回復の手記(イギリス)
 • ピセートル病院にてピネル医師が元患者を雇用し「穏やかに、誠実で、人道的な”積極的な残虐行為からの脱却”(フランス)

1830年

1840年代

- 1,157人に調査「回復した」として退院した患者のうち、58%が残りの人生で良好な状態を維持(マサチューセッツ州)



1940-60年代

- 隔離・拘束中心の医療
- 1950年代後半～公民権運動
- 1964年公民権法(アメリカ)
- 1968年 エド・ロバーツ大学入学 IL運動(アメリカ)



リカバリー志向に向けたムーブメント



ピアサポートの歴史 21世紀～

アメリカ

- 1990年～ リカバリー志向へ向けたムーブメント
- 2000年～ 認定ピアスペシャリスト制度創設(後述)

日本

- 1970年～ すみれ会(札幌市) 1983年 当事者運営作業所
- 1980年～ ピアカウンセリング講座(JHC板橋・自立生活センター)
- 1990年～ 「こらえるたいとう」ピアサポートセンター開設('98)
- 2000年～ 地域生活支援センターピアサポート強化・ピアスタッフ雇用増加
- 2001年～ ピアヘルパー養成(大阪府)



ピアサポートの歴史 ここ10年

ピアサポート専門員機構

- 2009年～ ピアサポーター(スタッフ)養成研修研究事業開始(障害者保健福祉推進事業補助金事業)
- 2013年～ 「精神障害者ピアサポート専門員養成のためのテキストガイド」発行(以後改訂)
- 2015年～ 一般社団法人日本メンタルヘルスピアサポート専門員研修機構 設立

全国ピアスタッフの集い 日本ピアスタッフ協会

- 2012年～ 第1回全国ピアスタッフの集い開催(以後毎年開催)
- 2014年～ 日本ピアスタッフ協会 設立



まとめ

マシュー(Matthew Federici)の語り

- マシュー(Matthew Federici): コーブランドセンター専務局長、国際ピアサポーター協会理事、ピアベシヤリスト
- マシューのリカバリーの歩みと、ピアサポートとコミュニティ・インクルージョン

ピアサポートはコミュニティ・
インクルージョンの
最大の架け橋になる



Madison Modelから アウトリーチとピアサポートを考える

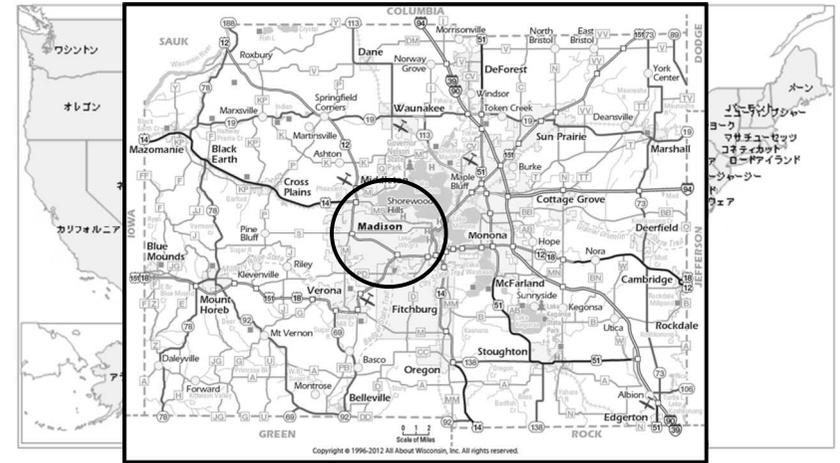


在宅療養支援診療所 より添いとたい話の診療所

谷口 研一朗

認定NPO法人地域精神保健福祉機構

久永 文恵



人口

- ・ウィスコンシン州 約571万人
- ・デー郡 約49万人 ・州都マディソン市 約23万人

ウィスコンシン州・マディソン市の概要

ウィスコンシン州

- Dairy Country (酪農の国)
- Badger State (アナグマ州)
- ビール、チーズの名産地
- 有名なスポーツチーム：
グリーンベイ・パッカーズ (NFL)
ミルウォーキー・ブルワーズ (MLB)
- 「大きな森の小さな家」の舞台
- 千葉県と姉妹県州



マディソン市

- ウィスコンシン州の州都
- 人口約23万人 (白人：86%・黒人：6%)
- 北海道帯広市に気候が似ており、姉妹都市
- キリスト教徒が80% (プロテスタント:50% カトリック:30%)

マディソンモデル：デー郡成人精神保健サービスシステム

- 1960年代：脱施設化が始まる → 地域での生活の場が十分でないまま、地域へ
- 病院での訓練が地域で生かされず、頻回入院を防ぐことができなかった (回転ドア現象)
- 1974年：各郡が地域サービス及び入院治療の責任をもつよう規定
- デー郡成人精神保健部：公的機関と民間団体のパートナーシップを構築 → 現在は21非営利機関による63プログラムと契約 (1995年までに必要な要素は備わった)
- 大切な考え方
 - ①リカバリー
 - ②利用者主体
 - ③ストレングスに基づく

デー郡成人精神保健サービスシステム

デー郡福祉局

成人地域サービス部
成人精神保健サービス

サービスへの委託契約 -- 21機関63プログラム

危機介入

- ・24時間対応の緊急サービス
- ・危機安定化プログラム：リカバリーハウス、クライシスホーム、アウトリーチワーカー
- ・ケアセンター
- ・リスクがある成人向け

精神科入院治療

- ・メンドータ精神保健研究所
- ・ウィネベゴ精神保健研究所
- ・3つの地域総合病院
- ・パッジャーブレイリーヘルスケアセンター
- ・デー郡外の専門的治療機関への紹介

アクセス/照会

- ・リカバリーデー
- ・リソースブロッグ
- ・給付金スペシャリスト
- ・財政的支援コーディネーションプログラム

デイサービス

- ・オフ・ザ・スクエア・クラブ
- ・ヤハラハウス・クラブハウス
- ・カシヤハウス-東南アジアの人たちを対象
- ・東南アジアの寺院

地域支援プログラム

- ・5つのCSP（地域支援プログラム）チーム
- ・PACT：バクト

包括的地域サービス(CCS)

- ・ケースマネジメントを含む一連の心理社会的サービス
- ・開かれたサービス提供機関のネットワーク

ケースマネジメント

- ・ケースマネジメントを目的とした3つのプログラム
- ・2つの拘留所転換ケースマネジメントプログラム
- ・ヤハラハウス

薬物療法支援サービス

トラウマにかんするサービス

- ・家庭内暴力介入サービス
- ・レイブクライシスセンター

就労支援サービス

- ・IPS 個別就労支援
- ・ヤハラハウス・クラブハウス

住居サービス

- ・8つのグループホーム
- ・個別の紹介
- ・クライシスホーム
- ・短期ケア
- ・3つのまかない付きホーム
- ・支援付きアパート
- ・政府が補助金を支給する住宅

ホームレス サービス

- ・過渡的住居
- ・ハウジングファースト
- ・住居とアウトリーチサービス

ピアサポート

- ・リカバリーデー/ SOAR：ソア
- ・CSP：地域生活支援プログラム
- ・Chrysalis：クリザリス
- ・アウトリーチワーカー

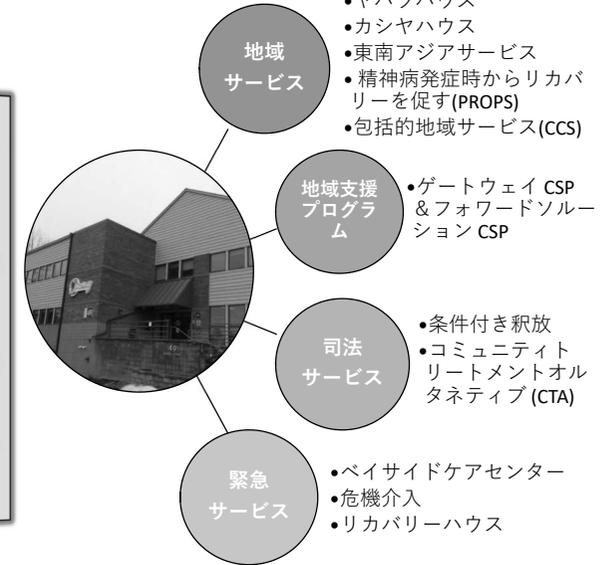
精神療法

他のサービス

- ・代理受取人
- ・裁判所の命令による評価

ジャーニーメンタルヘルスセンター

- ✓CSPはACTのフィデリティには沿っていない
- ✓触法ケースはCTAが担当
- ✓Baysideは12床、5つのツインルーム、2つのシングルルーム。平均利用期間は4~7日
- ✓Crisis Interventionは24時間体制。スタッフは30人くらい。5人のPeer Specialistが在籍
- ✓ホーリティックヘルスへの取り組み



Journeyの外観



Bayside

受付は
ハイテク！





- ✓ 住宅街にある一軒家
- ✓ 全個室、50%が短期の繰り返し
- ✓ 平均利用日数は3~5日
- ✓ アルコールと薬物の使用は禁止
- ✓ スタッフの半数はPeer
- ✓ 18歳以上で、火災の際に3分以内に自力で避難できる人が対象

Recovery House



オフ・ザ・スクエア・クラブ

- 精神疾患のある人が対象（ホームレスの人も多い）：18才以上でデーン郡に居住
- 日中に立ち寄れる場所
- サービス：
 1. 無料の温かい食事の提供
 2. 電話・インターネット・テレビ・洗濯機や乾燥機の利用
 3. ピアサポート
 4. クラブの中での仕事体験
 5. つながりをつくる機会
 6. 緊急時のサービス
 7. 情報提供やサービスへの紹介
 8. グループ活動やボランティアの機会



10

PACT: Program of Assertive Community Treatment

- 1972年にACT(包括型地域生活支援プログラム)を開発
- 開発にかかわったデボラ・オールネスのことば

「治療と安全性は、治療施設の壁の中でのみ提供されるという、根拠のない確信。この誤った思い込みは多くの場合、病院、グループホーム、作業所などの最も制限のある環境へ不適切に入所させるきっかけとなる。

PACT は、「最も制限の少ない選択肢」を重視する。」



← ↑この場所から始まった¹¹



ACTの特徴

対象者

- 既にある支援サービスでは地域生活の継続が困難な人たちを対象
- 長期入院・精神科救急サービスの頻回利用

訪問（アウトリーチ）

利用者が生活をしている場に、スタッフが積極的に訪問

1日24時間 365日対応

日中の訪問が主だが、1日24時間365日、チームにアクセスが可能

超職種チーム

看護師、精神保健福祉士、作業療法士、精神科医、就労支援の専門家、ピアスタッフなど、さまざまな職種で構成

生活支援と医療が結合

生活の質を良くする、さまざまなサービスを提供

利用者の希望・ニーズにそったサービス（個別化されたサービス）

利用者の希望する生活を実現していけるよう、それぞれのニーズに応じてサービスを提供

- ✓ PACTの朝のミーティング
- ✓ 全利用者のレビューを1時間くらいで
- ✓ スタッフは21人
- ✓ 15%は裁判所命令で服薬義務
- ✓ 1/3にクロザピン使用
- ✓ 50%にメタボリックシンドローム

- ✓ Dr.Bに同行
- ✓ 診療スタイルはほぼ日本のACTと同じ
- ✓ 合併症治療は外部のドクターが計画を立て、処方PACTチームドクターが行う
- ✓ 訪問は多くても1日2~3件
- ✓ 140人を担当

- ✓ 24時間365日体制
- ✓ 日本のACTのモデル
- ✓ 21時までのシフト勤務 (8:00~16:30、16:30~21:00)
- ✓ 夜間はオンコールで実動はほとんどない
- ✓ リスクがあるときは警察が対応し、それ以外は翌日対応

- ✓ なんか日本と比べて余裕がある印象
- ✓ 女性が多い

認定ピアスペシャリスト ピアスペシャリストは "ゲームチェンジャー"

「これまでの固定観念を変え、変化をもたらす」

- ウィスコンシン州の認定資格
- 2010年に最初の試験を実施
- 約400名が認定を受けている
- 40時間の研修⇒試験⇒認定
- 2年ごとに更新：20時間の継続教育を受けることが必須
- 主な勤務先
地域支援プログラム、自立生活センター、ピア運営の短期滞在施設、支援つき住居プログラム、危機介入プログラム、クラブハウス、就労支援などなど

ピアスペシャリストの役割は多様

その人の働く場に応じて柔軟に動く

- 自分のリカバリーの経験を道具として活用
- リカバリーに役立つ情報を提供
- 精神保健や依存症などにかんする情報を提供
- 危機的な状況にかんする支援
- 自己決定を促す
- 他の支援者とのコミュニケーションを円滑にする

認定ピアスペシャリスト

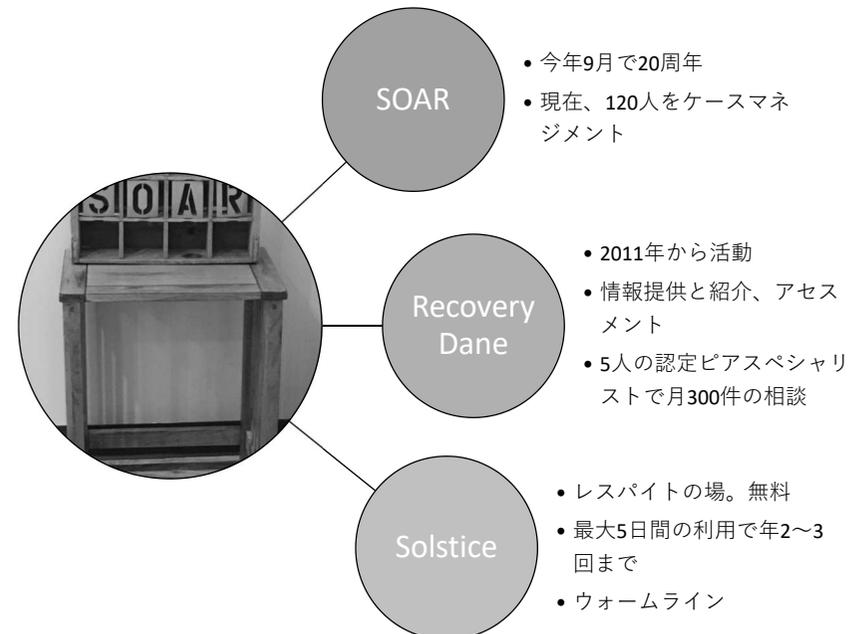
認定ピアスペシャリスト ネットワークミーティング

- 月1回開催：ピアスペシャリストとして働いている人、ピアスペシャリストに興味のある人などが参加
- ピアスペシャリストのキャリア形成なども話題に

新たな動きとして…

家族の認定ピアスペシャリストの養成：

- 若い家族が精神的・社会的に体験する困難や、薬物使用の心配ごとに対して支援を提供する
- 知識や役立つスキル、変化や成長への希望を持ち続ける、ロールモデルとなる

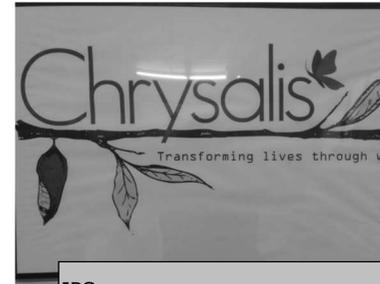


Solstice (至点) ハウス

- 認定ピアスペシャリストのみで運営
- 誰かに紹介されるのではなく、その人が利用したいと思ったときに自分で連絡をして利用
- 最長5日間滞在できる
- ウォームライン：24時間対応の電話相談・緊急性が低いもの（例：さみしい・眠れない・寄り添ってほしい）



「いくらかの希望を置いていってね」



IPS

- 一般就労を支援、職場開拓も。
- 常勤のPeer Specialistが3人、非常勤が1人。1人で14~18人を担当。
- 常勤のESが4人。各20人を担当。外部のサポート（CSP、SOARなど）と連携。



POPS

- 2016年から始まった就労体験の場。地元農場で採れる100%オーガニックフルーツを使ったアイスクリームの販売
- 時給11.75ドル。4~9月限定。

Co Design
Co Production
PEER
Game Changer